

大磯・高麗山山行報告（平成 31 年 01 月 26 日(土)）

昨年 12 月の例会で決定した「大磯・高麗山」（こまやま）の山行は、伊藤がリーダーとなって新年山行として実施された。若干出入りはあったが、伊藤、石井（幸）、荻野、神田（玲）、早坂、三浦、陽田の 7 名が参加した。

今日は“晴れ男”がいないにもかかわらず、快晴の好天気である。前日の気象情報では「関東地方の平地でも雪が舞うかもしれない」とのことであったが、風もない上天気だ。9 時に大磯駅に集合して、9 時 10 分に出発する。陽田さんは足の遅いのをカバーするために既に先行している。

駅を出て東海道線沿いに東進する。難しい道ではなかったが話に夢中になって道を間違えてしまった。すぐに気が付いて戻ったが、10 分以上余計に時間がかかってしまった。暫く静かな住宅街を歩くと松並木になり、途中“化粧井戸”（けわい）なる“旧蹟”があった。国道 1 号線沿いに少し歩いて、左折して登りだす。しばらく登った坂の中腹に「高来神社」（たかく）が現れた。この地に昔、朝鮮・高麗／高句麗からの移民が住んだので、彼等（又はその子孫）が神社を建てたものであろうか。呼び名も昔は“こまじんじゃ”と云ったそうで、“高来”も“こうらい”とも読める。

神社の裏手からいよいよ本格的な登り道になる。「男道」と「女道」があるが、勿論「女」を選ぶ。近場の人達のよい“トレッキング道”なのだろうが、少し荒れていた。あちこちに「滑り注意」の看板があり、少し急な部分と緩いじぐざぐ道が交互に現われるが、乾いた落ち葉道なので滑らないのでよい。楽かと思った割にはきついので、昨今の世相を反映して女坂の方が男坂よりもきついのではないかという声も出た。周りは常緑広葉樹が多く、海からの風も通るので、これなら夏でも登れそうだ。やがて「男道」と合流し、最後に“135 段”の階段を登りきると「高麗山」（167m）の頂上に出た。

「大堂」と呼ばれ、以前はお堂があったのだろうが、今は基壇の台座の跡のみを残すただっ広い広場になっている。ここで先行した陽田さんと合流する。15 分ほど小休止、軽く行動食を食べ、10 時 25 分に出発する。

少し下り、掘割りに架かった 2 本の立派な木橋を渡ると「八俣山」に着く。ここからガクッと下って登り返す。10 時 50 分、本日の 3 座目で“最高峰”の「浅間山」（181m）に到着。ここには低山ながら「一等三角点」がある。また“小さな鳥居”と祠があった。

高麗山経由で登ってきたのだろう、元気な大勢の小学生達のがやがやと行くのを追いかけるように、再度下って登り返し見晴しのよい「湘南平」（別名：千畳敷）に到着した。確かに広い、だっ広い！手前側に NHK 電波中継塔があり、奥側にレストラン付きの展望台が向い合って建つ。南側には大磯の海が広がる。広場では小学生達がてんでにお昼を食べていた。展望台に上ってみると、空に雲はあるが富士山には雲がかからずに頂上まではっきり見えた。

我々の今日の昼食は小田原なので、まだお預けだ。予約が 13 時半なのでまだ早い。それでも手持

無沙汰なので11時20分に「湘南平」を出発する。あとはひたすら下るのみ。20分ほどで一般道へ出る。大磯駅手前の東海道線線路沿いに「島崎藤村邸」があったがパス。

12時20分に大磯駅に到着、駅前の地産品のお店で地方振興に貢献された方々がおられた。4駅ほど先の小田原駅に13時少し前に到着、すぐに三浦さんに予約をお願いしていた海鮮料理屋：「五ッ浦丸」に行ったら、席があるというので、少し早かったが座る。少し広めで20人用位の部屋を貸切り状態になった。ところで、青柳さんは、今日は建築士との立会いがあるとのことだが、律儀に“新年会”には駆けつけてくれるという。丁度予約時間の13時半頃ご到着。

新年会はいろいろな話題で盛り上がったのは言うまでもない。会の故事来歴や懐かしい思い出話、孫の話（勿論誰の孫か分かりますよね）、老人ホームへの食事の仕出しの仕事（“極刻み” やすりおろしでも何の材料か判るのよ、トシヨリをなめんなよ！！皆さんもこれから行く道かもしれませんよ。）、女性陣が御主人の身体を心配する などなど（出席されなかった皆さんにも聴かせたかったな。）。15時40分にお開きにして駅へ向かう。ここでも地域振興に協力しようという方々が居られたのは、GDPの点からも喜ばしいことである。最後は東海道線の方と小田急線の方に分かれ、小田原駅での解散となった。

今年は春から縁起がいい！出掛ける時は晴れ続きです。昨年来の満を持した山行ですから。今年は皆さんからいろいろな計画、希望を出していただいて、実行していきましょう。宜しくお願いします。

（伊藤）